



広報

かんど

第249号 令和8(2026)6.11
神門コミュニティセンター

いきいき 自然とふれあう花の里

神門地区の人口
(令和8年4月末日現在)

前年同月増減

世帯数	3,390	+121
人口	8,551	+112
男	4,140	+46
女	4,411	+66



令和8年度神門地区自治協会 総会

この原稿を書いている今、この原稿を書いている今、風の影響もなく、また、豪雨による避難指示が5年ぶりに発令されな

一方、自治会は若い人たちが加入せず、高齢者によって運営されている地区も多いと思います。若い世代は、SNSや子どもの学校などを通してつながらず、趣味による関係重視し、住まいが近いというだけの理由で自治会に加入することは煩わしいという声を聞きます。

今年度も引き続き自治協会会長を務めさせていただきます。皆さまには、日ごろから自治協会の運営及び活動に対し、ご理解とご協力をいただき厚くお礼申しあげます。

厚い雲におおわれ冷たい風が吹いていた冬もようやく終わり、花が咲き木々が芽吹き、田や畑から賑やかな声や音も聞こえてくるなど、自然も人も活動を始める時季になりました。昨年は、7月から記録的な暑さが続きましたが、台

若い人たちが、自分の意思で自治会に加入し自治会を活性化し、いざというときには住民同士で助け合う関係を日ごろから作っていく。朝夕には難しいことですが、そういう「つながり」ができないか、みなさんも一緒に考えてみませんか。



ご挨拶

神門地区自治協会
会長 木代 伸治

令和8年度 神門地区自治協会役員											
顧問	片寄 進 (下組西)	会長	木代 伸治 (沖中)	副会長	永島 弘明 (保二)	〃	影山 喜一 (上組北)	〃	石倉 康民 (中組)	〃	三島 秀昭 (沖下)
理事	大野 一郎 (保三)	〃	岡田 孝司 (油井分三南)	〃	内田 宏 (上北)	〃	児玉 健治 (上組北)	〃	高見 厚子 (地藏堂)	〃	林 美登里 (春日南)
〃	浅津 彰敏 (北組)	〃	杉原 悟 (中組)	〃	梶谷 幸司 (両下)	〃	春日 善治 (知保上)	〃	原 篤美 (東谷)	〃	永岡 光男 (沖中)

スポーツ講演会

伊藤蒼唯選手 「#がんばるきもち」

神門地区スポーツ協会 会長 林 英昭



4回目
のスポー
ツ講演会
を8年ぶ
りに開催
しました。講師は昨年11月の全日本
大学駅伝5区で区間新をマーク
し、MVPを獲得、月刊誌「陸上
競技」の表紙を飾った、今や学生
トップランナーに成長した駒澤大
学の伊藤蒼唯選手です。伊藤選手
には、くびきマラソン出場に合
わせ帰省中の間、地元の皆様へ
の恩返しにと講演を快く引き受け
ていただきました。

終わりに梶谷センター長より、
「今春、富士通に入社され、将来、
日の丸を付けてご活躍されること
を願っています」とお礼の言葉が
ありました。最後に記念撮影やサ
インを求める人も数多くあり、盛
会のうちに思い出に残る講演会が
終了しました。

2月22日(日)、神門コミセン大
集会室が小学生から90代までの
110人でいっぱいになりました。
講演では伊藤選手が走り始め
たきっかけ、小・中・高・大学生
と成長の過程をプロジェクトを
交えて説明され、箱根などの駅伝
に懸けてきた情熱や、今後の抱負
などを約30分語られました。残り
30分の質問コーナーでは、さまざ



真幸ヶ丘公園桜まつり

神門商工振興会 会長 藤江昭雄

4月4日(土)に「第8回真幸ヶ丘公園桜まつり」を開催しました。当日は悪天候のため会場を朱鷺会館に変更し開催しました。来場を心配しておりましたが、小さなお子さんを連れた方など400人余りの方にお越しいただきました。

しまね和牛肉など、150本の賞品が当たる大抽選会は、抽選券配布前にたくさんの方の列ができるほど大盛況でした。

豚汁無料サービス、ステージイベントも楽しんでいただけました。

神門商工振興会では、これからも会員一同地域に密着した活動をして参ります。

最後になり
ましたが、共
催の真幸ヶ丘
協会様にお礼
申しあげます。



年間を通しての活動

神門地区交通安全対策協議会 会長 藤原朝雄

神門地区の皆さま方には、平素より、交通安全に心掛けていただいていることに感謝しています。

交通事故が無くなることはないと思いますが、少なくとも減らすことはできると思います。

そのために、交対協として春秋の全国交通安全運動の期間中、町内の委員さん、役員、慶人会の皆さま方による見守り活動をしています。また幼稚園、保育園、第II保育園での交通安全教室、河南中学校での正しい自転車の乗り方指導を警察の方と一緒にしています。年末には、

飲酒運転撲滅
キャンペーン
等々事故を防
ぐ活動を行っ
ています。

今以上に地
区の皆さま方
には交通安全
の意識を高め
ていただきま
すようお願い
いたします。



令和7年度 自治協会長表彰

勝部 正治様 (町二)

真幸ヶ丘公園まつり委員会の副実行委員長をはじめ神門地区諸団体の役員として、地域の活性化に尽力。

米山 弘 一様 (沖上)

神門青色パトロール隊の隊長として、児童生徒の見守り活動をはじめ犯罪や事故の未然防止に尽力。



神門
コミュニティ
センター
ホット@

つながる コミュニティ

2月の「ホット@」は、「えほんびじゅつかん」と題して、神門幼稚園の園児の手づくり絵本展を開催しました。いずれの作品もまもなく訪れる春を待つ土の中のたけのこのように、あふれんばかりのいのちの輝きを感じました。



3月は、「百歳の小個展『干支』と『花』と『風景』」と題して、江戸貞夫さん(上組西)の絵画展を開催しました。風雪に耐える青竹のように力強さと優しさを備えた数々の作品は、百歳になられる今も創作活動を続けておられる江戸さんの歩みと相まって、地区内外から来館された多くの人に励ましを与えてくれました。

「ホット@」では、これからもコレクションや作品の展示の場を提供していきます。それらの展示をご希望の方は、神門コミュニティセンターまでご連絡ください。自薦、他薦、地区の内外を問いません。

子どもも大人も学ぶ 「わくわくチャレンジ」

神門地区青少年育成協議会 会長 山田裕之

3月24日(火)、わくわくチャレンジ「みんなで学ぼうローリングストック」を開催しました。今回は、対象者を小学生に限定せず、中高生や地域の方々にも広く呼び掛け、参加者は15名でした。

ローリングストックとは、普段の生活で少し多めに食品や生活用品を購入し、使った分だけ補充することで、常に一定量の備蓄を維持する方法です。この方法により備蓄品の鮮度を保ちながら、賞味期限切れによる廃棄を防ぎ、災害時にも日常に近い食生活を送ることができます。

講師に備蓄防災食調理アドバイザーでフードコーディネーターの西本敦子先生をお招きし、家庭で無理なく備蓄を維持する最適な方法や、災害時に役立つ知識について学んだ後、実際に火も水も使わずに栄養を摂れるお菓子作りを体験しました。

参加者からは「すぐに実践したい」「とても手軽でおいしいので、帰ってから作って家族に食べさせたい」といった声が聞かれました。

災害に備えるローリングストックを日常生活の一部に取り入れる重要性について考えることができ、有意義な企画事業となりました。



団体長の交代

● 神戸川興学会

会長 林 伸 (古志町)

神門地区へのご寄付

神門地区の皆さまから丁寧なるご寄付を賜り、厚くお礼申し上げます。

《香典返し》

ご遺族の皆さまからご寄付いただきました。

布野 敏孝様 (節代)

知井宮町 嘉儀

三木 整様 (マスノ)

芦渡町 油井分一

江戸教一郎様 (一江)

下古志町 上北東

伊藤 崇元様 (弘子)

知井宮町 北組

矢野真由美様 (信夫)

知井宮町 保知石

漆谷 好紀様 (勉)

西新町 間谷

高見 恵子様 (芳夫)

下古志町 上北中央

西村 幸恵様 (布野義房)

知井宮町 嘉儀

令和8年2月20日

令和8年4月27日

神門コミュニティセンター 令和8年度自主企画事業

今年度は、事業委員会の7専門部60名のメンバーで、下記のとおり、19事業を計画しています。誰でも気軽に参加し、楽しんでいただけるよう取り組んでまいります。

具体的な事業内容は、開催日が決定した都度、戸別配布の参加者募集チラシでご案内します。また、神門コミュニティセンターのホームページでも左記の手順でご覧いただけます。



青少年部

部長 山田 裕之
副部長 浜村 明宏

- こどもクラブ
- 生きる力を育てよう
- ひとりのできるもん
- わくわくチャレンジ

健康スポーツ部

部長 勝部 益生
副部長 田中 辰郎

- レッツゴーけん玉
- 森林浴ウォーキング
- PICK UP GO
- 大人の運動教室

広報部

部長 高見 厚子
副部長 吉川 潔

- 広報かんどの発行

地域学習部

部長 石倉 康民
副部長 黒谷 幹雄

- わくわく探訪塾
- こみゆにてい交流ひろば

ハッピークラブ

部長 原 弥生
副部長 大國 裕子

- ハッピーカフェ
- 子ども縁日
- 二十歳あつまれ～

生活部

部長 伊東美穂子
副部長 吉川あつこ

- くらしを考える活動
- 生活を彩る活動
- 食の勉強会

文化部

部長 山本 順久
副部長 大野 一郎

- 神門地区総合文化祭
- 楽習会

**神門コミュニティセンター
令和8年度職員**

マ	マ	マ	チ	セ
ネ	ネ	ネ	ー	ン
ジ	ジ	ジ	ャ	タ
ャ	ャ	ャ	ー	ー
香	西	佐	三	梶
川	村	藤	木	築
洋	直	和	里	谷
美	貴	代	紗	生

一年間育児休業をしておりますが、この度復職しました。しばらくは短時間勤務となりますが、担当業務に精一杯取り組んでまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いたします。



マネジャー
三木里紗
(浜町)

復職のあいさつ

専門部の部員(ボランティア)募集

神門コミュニティセンターでは、各専門部の部員を随時募集しています。興味・関心のあることを一緒に企画から運営まで行ってみませんか。ご希望の方、ご関心のある方は、お気軽にお問合せください。

【お問合せ・お申込み】
神門コミュニティセンター
TEL 21-1038



わくわくチャレンジ 青少年部

1月31日(土)
参加人数：小学生 14名
講師：園山咲子さん
(管理栄養士)



餃子

みんなで300個作ることを目標に餃子を作りました。包丁でキャベツやニラを切り、材料をボウルで混ぜ合わせたあと、餃子のタネを皮で包みました。班で協力しながら、楽しく餃子を作ることができました。

第3回ハッピーカフェ 2月16日(月) 参加人数：14名 講師：山根理沙さん ハッピークラブ



ピラティス

西洋のヨガと呼ばれる「ピラティス」を体験しました。幅広い年代の参加者に合わせて無理なく、身体をほぐし骨盤を整えたり、インナーマッスルを鍛えるなどバランスのとれた身体にする動きを体験しました。

生きる力を育てよう！ 青少年部

3月1日(日) 参加人数：小学生・家族8名
講師：野津寛延さん(いずもTogether)



サバイバルクッキング

災害時に限られた状況で自炊することを想定して、サバイバルクッキングを実施しました。カセットコンロを使って炊飯巾着で米を煮る間、豚汁も作りました。避難所でのトイレの話や自宅でできる備えなどを教えていただき、災害の備えに対する意識の向上に繋がりました。最後にみんなでご飯と豚汁を食べました。

4月26日(日)、国土交通省出雲河川事務所の主導で、神戸川の沿川の朝山地区から荒木地区の8地区が参加して神戸川一斉清掃が行われました。
神戸地区は60名の参加があり、古志境から大島境の3.4kmを5箇所に分かれて清掃を実施しました。
(神戸コミュニティセンター)

神戸川一斉清掃

力をいただき心から感謝申し上げます。

コミセンの自主企画事業

1月30日(金)
参加人数：39名
講師：勝部政則さん
(出雲の加田屋)
地域学習部



トマトが苦手でもきっと「好き」になる

トマトの栽培を始めるきっかけから、現在地域が抱えている問題点、地域に貢献したい熱い思いなど幅広くお話しされ、とても実のある講演でした。多くの参加者がきっとトマトを「好き」になれたのではないかと思います。

2月27日(金)
参加人数：15名
講師：園山咲子さん
(管理栄養士)
生活部



筋骨クッキング

鶏むね肉を使った中華炒め、干しえびご飯など筋肉や骨を強くするメニューで、おいしく栄養チャージしました。時間栄養学のお話では、時間と内容を考えて食事を摂取するとよいことを学びました。

真幸ヶ丘公園まつり 委員会の解散

会長 木代伸治

当委員会は、3月1日に開催した臨時総会で収支残金の清算及び解散について、委員の皆さまに承認をいただきました。その後、当公園の指定管理者の真幸ヶ丘協会へベンチ及びイスを寄贈し、残金を自治協会へ寄付した後、神戸地区監査委員会の監査を受け、解散しました。これまで長い間ご支援ご協力をいただき心から感謝申し上げます。

かんど再発見

(No.97)

多聞院貝塚の再調査

知井宮町の多聞院の境内に、出雲市指定文化財の史跡「多聞院貝塚」がある。矢野遺跡と並び出雲平野の重要な弥生遺跡である。

令和5年から「出雲弥生の森博物館」がその出土物の再整理を実施し、その成果が同7年の秋に展示された。

同遺跡は平野西部の標高6メートル水田面より2メートルの微高地にあり古代の神門水海が近くに迫る。昭和4年に出土品が初報告されて以後の発掘調査の出土物(土器、石器、動物骨角、貝類、金属器等)は明治大学、出雲弥生の森博物館などに所蔵されており今回それらが対象となった。



知井宮多聞院遺跡のチヨウセンハマグリ(出雲弥生の森博物館所蔵)

土器については弥生時代前期末から中期初め頃(約2300年前)のものが新たに確認され、遺跡の始まりは従来報告(同時代中期中葉)より約100年古くなると判

明した。遺跡の終わりは古墳時代前期(約1700年前)としている。また県内でも珍しく市内では初の近畿系の土器(台形土器)の新確認もあり双方の交流の存在が覗けた。

一方、従来の遺跡調査は土器の調査に重きが置かれがちであったものが、動物骨角、貝類については今回特に動物考古学の研究者吉永亜紀子氏が調査に参加され、狩猟漁労活動の内容を探るものにも



知井宮多聞院遺跡の土器、鹿角装刀子他(出雲弥生の森博物館所蔵)

なった。最初いくつかの加工品において誤同定(貝の種類の見つけがかりが正された。また出土貝類の産地を探るべく打ち上げ貝類の採集のため、大社湾、島根半島沿岸、鳥取県弓ヶ浜半島の海浜の踏査が行われた。

まず動物骨角類は鹿、猪、鯨、犬などのもので、鹿角製鏃、鹿角装刀子、鯨骨製紡錘車、用途不明の骨角器などがある。当時の報告には無いが、鋭利な道具で鹿角を加工した痕跡(解体痕、加工痕)が多数確認された。鹿角は硬いので弥生時代に入ってきた鉄製道具が使われたと推測される。同時

代中期以降は道具の多様化(板状鉄斧・袋状鉄斧、鈍、楔状鉄器、鏃、鏃)により骨角器製作が活発化する。同遺跡では鉄製品はあまり報告されていないが、酸化腐食し易く残りにくかったためと考えられる。また、鹿の角に犬の歯形

がついているものがあって、犬を狩りに使っていたと推測された。鯨骨製品は出土例が珍しく、重文になった奈良県の唐古・鍵遺跡出土品には鯨骨製品が含まれていた

ので多聞院遺跡は再評価に値するとされた。次に貝類は淡水産、汽水域産、海浜産のものそれぞれに多種み

れた。貝は食用や貝輪などの装飾品の材料に利用される。汽水域産のヤマトシジミの個体数が一番多く次いで多いのが昔の資料ではあまり記載していない海浜産のチヨウセンハマグリ(汀線蛤、潮線蛤など)であった。前者は近場の神門水海産とみてよく、後者については実地調査において型の良い多種の打ち上げ貝がほぼ大社湾でしか採取できなかったため産地は同湾と考えられた。

今回の再整理で多くの成果が得られたが、博物館では引き続き多聞院遺跡に注目しながら研究を進めるとしている。令和11年には「知井宮多聞院遺跡100周年」を迎える。郷土の史跡の更なる研究成果が期待される。

参考資料等

- 出雲市の寺々①/永田滋史/出雲市民文庫12/H5
- 郷土誌神門/H9
- 出雲弥生の森博物館パンフレット
- 2025ギャラリー展Ⅱ
- 知井宮多聞院遺跡
- 2025秋季企画展
- 出雲の弥生人なに食べた?
- 講演・吉永亜紀子
- (総合研究大学院大学統合進化学研究センター)連携研究員/H7・11・1
- 多聞院御住職お話

注釈

- ※1 遺跡出土の動物遺存体(骨、歯、角、貝殻)から人と動物の関係の歴史を考える考古学の分野
 - ※2 繊維を撚って糸を紡ぐ道具
 - ※3 チヨウセンハマグリは汽水域産のハマグリと違い外洋域に生息する(朝鮮半島産はシナハマグリ)
- (神門ヒスタム会員 園山高敏)

お知らせコーナー

○神門地区

スポーツレクリエーション祭

開催日 9月27日(日)

場所 神戸川小学校 体育館

○神門地区総合文化祭

開催日 11月7日(土)

11月8日(日)

場所 神門コミュニティセンター

「広報かんど」編集委員

- ◎高見 厚子 ※梶谷 幸生
- 吉川 潔 ※杵築 桂子
- 三島 秀昭 (※コミセン職員)
- 林 美登里
- 片寄伊津子

